

【社会・中3・「戦後日本の発展と国際社会」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 第二次世界大戦後の諸改革の特色や、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められ、国際社会における日本の役割が大きくなってきたことを理解している。
- (思・判・表) 日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。
- (学びに向かう力等) 日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

ICT活用のポイント

ICT端末を用いてプレゼンテーション、意見交流をすることで、考えを深め合い、ねらいを達成することができる

【つかむ】

戦後の日本の諸改革により、新しい日本の建設が進められたことから学習の見通しを持つ。

冷戦の中で日本が経済成長をとげたのはなぜだろう？

【追究する】

高度経済成長により、国際社会において日本の役割が大きくなっていることを考察、表現する。

【まとめる】

戦後の国際社会の中での日本の変化についてまとめる。

事例の概要

- 日本の高度経済成長の変化を光と影に分けて調べる。
- 高度経済成長の光と影をまとめ、発表し、他者と意見交流を行う。
- グループでの意見交流から、国際社会における日本の役割について考察し、発表する。

事例におけるICT活用場面

- ICT端末を使って調べた高度経済成長の光と影を、学習支援ソフトを用いてグループ中で発表する。
- 発表後、グループ内で意見交流を行い、参考になったことや新しい気づきなどを学習支援ソフトを用いて送り合う。
- 国際社会における日本の役割についてまとめ、学習支援ソフトを通して提出し、クラスで共有する。

【社会・中3・「戦後日本の発展と国際社会」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



情報共有により、協働的な学びが生まれ、生徒は新たな視点に気づくことができる。

【事例におけるICT活用の場面②】



【ICT活用の場面①】

- 高度経済成長の光と影という学習課題に対して、ICT端末を使って調べたことを学習支援ソフトを用いてまとめ、グループ内で発表した。
- 調べたことをICT端末を使って発表したことは、写真等を使うことにより、伝えようとするのが視覚的に相手にも伝えることができ、聞き手も分かりやすかった。



学習支援ソフトを用いたことで生徒も他者の発表・意見を共有し、比較することができ、多角的に考えを深めることができる。



【ICT活用の場面②】

- 学習課題の発表後、グループ内で意見交流を行い、良かった点や参考になったこと、新たな気づきなどを学習支援ソフトを用いて送り合う。
- 言葉で伝えることが苦手な生徒にとっては、学習支援ソフトを用いて、意見交流をすることで、自分の意見を相手に伝えることができ、新たな気づきも生まれた。

【活用したソフトや機能】
学習支援ソフト（提出・受信）